行 政 視 察 報 告 書

令和元年８月21日

西脇市議会
広報広聴特別委員会

１　視察実施日
　　令和元年８月21日（水）

２　視察先
　　丹波市

３　視察目的
・議会だよりモニター制度について
・議会だよりの編集について

４　調査事項
〇議会だよりモニター制度について
・制度概要（予算、実施方法、構成（選出方法）等）について
・実施に至った経緯・経過
・成果・課題
・モニター制度以外で市民の意見を反映させる制度について
〇議会だよりの編集について
・丹波市議会だより「たんばりんぐ」の編集方針
・「特集」記事決定のフロー
・アンケートの状況
・議員と事務局職員の役割

５　参加者
　　広報広聴特別委員会
　　委 員 長　浅田　康子
　　副委員長　東野　敏弘
　　委　　員　岡崎　義樹　　坂部　武美　　高瀬　　洋
　　村岡　栄紀　　近藤　文博　　吉井　敏恭
　　随　　行　高瀬　　崇（議会事務局）

丹波市議会だよりモニター制度の概要

〇目的・経緯

丹波市議会だより「たんばりんぐ」をより魅力ある紙面とし、読者を増加させ、多くの人に関心を持ってもらうために実施

平成27年度に第１回目の市民読者モニターを公募したが、応募がなかったため、編集委員６名が２名ずつ依頼し、12名でスタート

平成29年度からは市内の高校に依頼し、兵庫県立柏原高校インターアクト部、平成30年度は兵庫県立氷上高校商業農業クラブ・生徒会１年生正副委員長と読者モニター会議を開催。令和元年度は兵庫県立氷上西高校と実施予定

〇開催概要

読者モニター会議は年１回開催しており、「たんばりんぐ」の「いいねポイント」「だめだめポイント」を出し合ってもらう。

モニター員からの提案で、読者のコーナーを開設している。

議会報告会を令和元年度は６会場で開催

〇読者モニター会議「読モ会議」で出た主な意見

意見書、請願、陳情などの手続きを掲載してほしい。

読者のページがあると良い。

ひまつぶしでも読めるものを。

文字が多く読みにくい。

内容がむずかしく、若者には興味が湧きにくい。

〇質疑・応答

読者モニターの対象者を高校生にした理由

⇒市民読者モニター員の応募がなく、選考も困難であったことから、高校生からの意見聴取が効果的であると考えた。

高校での会議開催時間

⇒期末試験終了後の午後の授業時間外で実施

令和元年度で市内３高校を１巡するが、今後も引き続き実施するか。

⇒今後は、他の団体との意見交換を実施することも考えている。

「読モ会議」に広報広聴委員会の委員以外の傍聴はあったか。

⇒過去２回、それぞれ４～５名の傍聴があった。

丹波市議会だより「たんばりんぐ」の概要

〇最終目標

～議会だよりを通じて、市議会や市政に関心を持ち、参加する市民を増やす～

〇３つのポイント

１　ターゲットは「30代から40代の子育て世代の女性」

２　めざすは「５分で読破できる議会だより」

３　常に「読者目線」を忘れずに

〇質疑・応答

一般質問の原稿は誰が作成しているか。

⇒質問・答弁ともに質問した議員が作成し、理事者が確認する。

デザイン・レイアウトは誰が行っているか。

⇒デザイン・レイアウトは事務局で行い、編集ソフト（インデザイン）で作成する。
　最終校正まで事務局で行い、随時修正作業を行う。

委員と事務局の役割

⇒委　員　⑴　掲載事項の選定と原稿依頼
　　⑵　一般質問の原稿作成（質問議員）
　　⑶　視察報告の原稿作成
　　⑷　市民への取材・原稿の作成
　　⑸　編集後記の作成

　事務局　⑴　割付案・日程表の作成、委員会の案内、会議資料の作成
　　⑵　審議結果・定例会日程・見出しの作成、リード文や解説などの原稿作成
　　⑶　インデザインでのレイアウト作業
　　⑷　委員会への出席

項　　目	丹　波　市	西　脇　市
人　　口	64,380人（平成31年３月末現在）	40,684人（平成31年３月末現在）
世 帯 数	25,795世帯	17,141世帯
面　　積	493.21㎢	132.44㎢
条例定数	20人	16人
職 員 数	５人（局長、課長兼議事調査係長、総務広報係長、主幹、主査）	４人（局長、主幹、局長補佐、書記）
広報広聴委 員 会	総務文教･民生産建常任委員会より副委員長を含む各３名と 予算決算常任委員会より副委員長１名の計７名の委員で構成 正副委員長は互選	総務産業･文教民生常任委員会より各４人（副議長含む） 副議長が委員長 副委員長は互選
仕　　様	Ａ４版、表紙・裏表紙カラー、中面２色、簡易製本（中綴じ） ２ツ穴あけ、マットコート紙44.5kg	Ａ４版、表紙・裏表紙・中面フルカラー、簡易製本 ２ツ穴あけ、マットコート菊判48.5kg
ページ数	20ページ	16～24ページ（特集は別）
発行部数	22,400部	16,500部
発行回数	年４回（定例会の翌月20日発行） 定例会終了の約20日後に納品	年４回（２月/５月/８月/11月の１日発行）
契　　約 予　　算	20ページ／年４回分の合計額で契約 （仕分け 300通り、コンビニ等への配送含む） 令和元年度執行見込額 1,654,560円（税込） １号あたり 413,640円 １部18.5円・１頁0.9円	20ページ／年４回分の合計額で契約 令和元年度執行見込額 1,669,280円（税込） １号あたり 417,320円 １部25.29円・１頁1.26円

所　感

浅田　康子

丹波市役所に予定より早く着いたが、林議長はじめ近藤広報委員長、大西広報副委員長、そして職員の方が準備を整えて待っていてくださいました。

自己紹介の後、議会だより「たんばりんぐ」を担当されている事務局の女性から高校生読者モニター「読モ会議」の概要を資料に沿って詳しく説明してくださいました。

議会だよりを、より魅力ある紙面につなげる、議会だよりの読者を増やすことで、より多くの方に市政に関心を持っていただくきっかけとすることを目的として平成27年から実施されています。

平成27年に市民モニターを公募したが、応募はゼロであったとのことです。そこで、編集委員が直接２人ずつモニターの依頼をし、12人でスタートしたとのこと。私もモニター制度をするとなれば、モニター員の選出がむずかしくなるだろうと思っていました。公募をすれば丹波市と同じ結果になるのではないかと思います。方法としては、各地区から推薦していただく、若い世代や女性に入ってもらう、また各団体や民間企業から委員になってもらうなどが考えられるが、いずれにしてもお願いすることになると思います。

平成29年から「読モ会議」は丹波市内の３つの高校を１年に１高校ずつで行い、今年で一巡しています。今後のことを尋ねると高校での開催を続けるかどうかは未定だということでした。「たんばりんぐ」には、①議会だよりがバラバラにならないよう中綴じをした、②市民の声（活動しているグループを写真で紹介）を載せる等の高校生の提案を反映させているとのことでした。議会だよりについて10代の生の声を聞くことができる貴重な機会だと思いますが、高校との取組に課題もあると感じました。

「読モ会議」の説明の後、議会だより「たんばりんぐ」について詳しく説明をしていただきました。

丹波市の広報委員会は、親しみやすい紙面づくりをするための「目標」「作戦」「仕掛けづくり」などが明確に示されています。特に、①ターゲットは30代から40代の子育て世代の女性、②めざすは５分で読破できる議会だより、③常に読者目線を忘れずに、この３つのポイントに沿って発行されていることがよくわかりました。

今の私は委員長として、年４回期日までに仕上げ、発行することで精いっぱいで、忘れていたことに気づかされました。「議会だよりモニター」の制度を設置するのもひとつの方法だと思いますが、丹波市の広報委員会が取り組まれていることを真似からでもいいので、実行していきたいと思いました。

今回の視察で学んだことをわれわれの議会だよりに反映させていきたいと思います。

視察の予定時間をオーバーしてしまい、丹波市の皆さんにはご迷惑をおかけしてしまいましたが、学ぶことが多く有意義な時間でした。

所　感

東野　敏弘

今回の視察の目的は、丹波市議会だより「たんばりんぐ」モニター会議（読モ会議）と「たんばりんぐ」の編集発行について調査することでした。

読モ会議は、①より魅力ある紙面づくりにつなげる②「議会だより」の読者を増やすことで、より多くの方に市政に関心を持っていただくきっかけとすることを目的として、平成27年度に発足しました。

平成27年度は、各編集委員（議員）が２～３名の市民モニターを依頼し、12名でモニター会議を行いました。平成28年に選挙権年齢が18歳に引き下げられたことを受け、平成29年度は柏原高校インターアクト部（11名）と、平成30年度は氷上高校商業・農業クラブ・生徒会１年生正副委員長（41名）と行いました。令和元年度は氷上西高校と行う予定だそうです。

氷上高校での読者モニター会議は、第１部で、商業クラブ・農業クラブ・生徒会・市議会が５分でプレゼンを行い、第２部で「たんばりんぐ」について意見交換を行いました。事前に「たんばりんぐ」を読み「いいねポイント」「だめだめポイント」を出し合い、第３部では、「読みたくなるたんばりんぐを考えよう」とワークショップを行ったそうです。

丹波市議会では、当初は公募による市民参加の読者モニター制度を目指したようですが、実際は議員が依頼した市民による読者モニター会議や市内３高校との意見交換会になったようです。今後は、モニター会議よりも、各種団体との課題別の懇談会を行いたいとのことでした。

ただ、議会だよりをテーマに各種団体と意見交換を行うことは、意義のあることだと考えました。

丹波市議会の「たんばりんぐ」は、大変読みやすい議会だよりとして、私も以前から読ませていただいていました。

「たんばりんぐ」は、年４回（臨時号有）、市内全世帯に配布し、市内のコンビニにも置かせてもらっているそうです。親しみやすい紙面づくりを行うため、①ターゲットは30代から40代の子育て世代の女性、②目指すは５分で読破できる議会だより、③常に読者目線を忘れずに、３つのポイントを大切にされています。ターゲットをはっきりさせることの必要性を考えさせられました。

表紙は、特集記事とリンクさせた内容のものを使い、写真を使っている市広報と差別化を図っているとのことでした。また、裏表紙は市民の顔写真とメッセージを掲載しています。さらに、読みやすさを優先し、文字のフォントも大きくしています。

「たんばりんぐ」の編集は、広報広聴委員会の委員と事務局が協力して行っています。特に、「たんばりんぐ」編集を専属的に行う女性職員が配置されています。うらやましいと思いました。西脇市議会だよりは、ほとんど議員で編集しており、議会だよりの編集に相当時間が取られるからです。横書き・縦書きについても、臨機応変にしているのが良いと思いました。

行政視察　丹波市広報広聴委員会

吉井　敏恭

1　読者モニター会議について

平成30年７月、「読んでみたくなる作戦会議、はじめます！」の呼び掛けで、県立氷上高校　商業・農業クラブ、生徒会１年生正副委員長41名を対象に「読モ会議」が開催された。当初、平成27年に市民モニターを対象に議会報編集委員会として市民モニターを公募したが、全く市民の応募がなく、編集委員（議員）の６名が各々モニター２名を連れての開催となった。

市民モニター会議では、記事やレイアウト等の改善案が出され、一定の成果が得られたが、モニター募集の懸念から、２回目からは丹波市内にある県立高校３校を順に回ることとし、２回目は平成29年県立柏原高校、３回目は冒頭の県立氷上高校で開催された。本年は10月に氷上西高校での開催が予定されている。

本年で高校を一巡することとなる。次の「読モ会議」については白紙の状況であるとのこと。

2　丹波市議会だより「たんばりんぐ」について

初当選された女性議員の改革提案により「議会だよりって意外と読みやすいし、読めばおもしろいんだな。」と思ってもらえるよう、親しみやすい紙面づくりを心がけるとの取組が始まった。

最終目標（ゴール）を「～議会だよりを通じて、市議会や市政に関心を持ち、参加する市民を増やす～」として、紙面づくりの３つのポイント、①ターゲットは「30代から40代の子育て世代の女性」、②めざすは、「５分で読破できる議会だより」、③常に「読者目線」を忘れずに、を重点に定めている。

編集体制は、総務文教・民生産建常任委員会より副委員長を含む各３名、予算決算常任委員会より副委員長１名の合計７名の委員と事務局３名で構成されている。

3　西脇市と丹波市の相違点

◎編集等に関して

⑴　編集ソフト（indesign）を導入し、事務局においてイメージしたものを紙面に反映させることができる。デザイン・レイアウトは事務局で行い、編集ソフト（indesign）で作成したものをパッケージし、印刷業者に出稿している。

⑵　編集の役割分担　正副委員長、委員、事務局の役割分担がなされている。

⑶　議会だより「たんばりんぐ」の編集方針が成文化されている。

⑷　（市広報誌も同じ）自由に持ち帰っていただけるよう市内コンビニエンスストアに置いている。

◎記事に関して

⑴　一般質問の原稿は、文書共有システムにより提供されている音声データにより質問議員が「問」「答」（最高最低文字数の制限あり）を作成する。

当局（理事者側）校正済の原稿を質問議員が確認。その後の当局のやりとりは各自で行う。（委員会では校正しない。質問議員の責任編集。）

⑵　「５分で読破できる議会だより」をめざしていることから、西脇市と比較して文字数が少なく、イラスト・余白が多い。

４　所　感

西脇市において市民を対象に読者モニターを募集しても丹波市と同様の結果が見込まれる。西脇市においては、他市にない取組として「議会報告会」を実施している。この機会を利用して「議会だより」についての意見を聞く時間を設けることを提案する。

西脇市の「議会だより」は、丹波市の「読んでみたくなる…」「５分で読破できる…」との紙面づくりと全く異なっている。

広報広聴特別委員会の委員として編集に関わったが、縦書きから横書きへの変更以外、既発行の「議会だより」の記事や編集を踏襲しており、編集目標等の協議を行ったことがない。また、効率が悪く編集に多くの時間を費やしている。さらにパソコン入力等で一部の委員に大きな負担を負わせている。

現時点において読者モニターを募集することより、まず、編集目標・編集方法・編集ソフトの導入・既に配布されているiPadの利活用（原稿の入稿・校正に活用）等を検討すべきではないか。

所　感

近藤　文博

〇丹波市議会だより「たんばりんぐ」の読者モニター会議（読モ会議）について

実施状況は、年に１回過去３回実施、今年の10月に４回目を予定している。「読モ会議」は、当市の高校生版議会報告会と類似しており、ただしテーマを「議会だよりモニター」としている。高校生を主に対象としたのは、主権者教育の一環の意味合いもあると同時に、若者に議会だよりを読んでもらい、ファンになってもらうことで更に若者の読者層を広めたいとの意向であった。

「読モ会議」の中では、記事に対する評価、レイアウトに対する提案など、さまざまな改善案や内容についての感想や意見などがあり、編集に取り入れられるものもあり、また若者目線の表現などの参考意見もみられ、有意義なモニター会議となっている。

同市の議会だより「たんばりんぐ」は、親しみやすい紙面づくりを目指しており、３つのポイント

①　ターゲットは「30代から40代の子育て世代の女性」

②　めざすは、「５分で読破できる議会だより」

③　常に「読者目線」を忘れずに　である。

議会発行の情報誌である限り、議会の仕事ぶりをできるだけ知ってもらいたい思いがあるが、より若手に、より簡略に、より読者が何を知りたいかを重視した紙面構成にしている点が、当市の議会だよりでは改善の余地があるのではないかと感じる。

また、編集ソフトを導入し、専任担当がいることが強みである。

所　感

村岡　栄紀

丹波市は議会だより「たんばりんぐ」を発行するにあたって、年に１回、読者モニター会議を開催され、そこでの声を紙面に反映させるという取組を行われています。これまでモニターの対象となったのは丹波市内の柏原高校、氷上高校、氷上西高校の３高校の生徒さん。

なぜ、高校生を対象としたのかということに関しては、平成28年から選挙権年齢が18歳に引き下げられたことがその要因ということですが、いきなり募集段階から躓き、高校生を対象に公募したようですが、まったく応募が無かったということです。そこで、公募を諦め、議会側からお願いして実施するといった方式になっているということです。

この方式に関しては、本市において開催している「課題懇談会」とパターンが似ており、そのあたりから推察すると、本市において「議会だよりモニター」を行うとしても、公募による参加はおそらく期待できず､議会のほうから積極的にアプローチするのがベターだと思われます。そして、丹波市は高校生を対象にされましたが、本市で開催するとなれば、例えば、若い世代の声として「高校生や大学生」、高齢者世代として「老人会」、子育て世代として「ママさんサークル」、ビジネス、販促など商業界として「商工会議所」など色々な対象が考えられるのではないかと思われます。

そこで、私の提案ですが、「議会だよりモニター」に関しては積極的に進めていくべきであり、まずは若い世代の方にモニターになってもらいたいと考えます。丹波市は高校生を対象とされていましたが、できれば大学生で、広報紙に興味があり、マーケティングやデザイン、まちづくりなどを専門に勉強しているような学生さんであればなおさら良いです。本市においては、関西学院大学、神戸芸術工科大学、兵庫県立大学、兵庫教育大学などとタイアップしているので、ぜひこれらの学生さんに、モニターとして協力してもらう方向で進めていきたいと思います。

「議会だよりモニター」に関しては以上でありますが、今回の視察において、丹波市議会だより「たんばりんぐ」が特に優れていると感じたのは、親しみやすい紙面づくりの３つのポイントを定めており、その中でもターゲットを「30代から40代の子育て世代の女性」にしっかりと絞り込んでいる点です。ターゲット選定理由として、「子育て支援やこども園・学校のことなど、子育て世代に関する話題（議案）が多い市議会に、もっと関心を持ってもらうのがねらい。表紙のイメージや色使い、イラストなど子育て世代を意識した紙面づくり、ターゲットを絞ることで、記事の選定時などの判断基準にも。」とされています。ここを一番のポイントに押さえられている丹波市はさすがだと思います。

これまで私自身も、本市において議会広報紙の制作に携わってきましたが、「誰に読んでもらいたいのか？」ということは、残念ながらまったく頭に無く、考えたことがありませんでした。しかし、よくよく考えてみると、議員になる前の民間企業時代の自分自身の仕事を振り返ると、例えば、販促活動としての広告媒体を考える時に、マーケティングとして、いの一番に行っていたのが「誰に売りたいのか」という「Who」「ターゲットの絞り込み」であり、それに基づいて販促媒体をつくり、そのレスポンスをきちんとリサーチし、検証を行っていました。その時は「レスポンス率」というのを非常に重要視しており、その結果に一喜一憂する毎日だったことを思い出します。

民間企業の販促媒体と議会広報紙は、まったく別のものではありますが、考え方によっては、レスポンス率を上げるのと、多くの市民の皆さんに読んでもらうことは、ほぼ同義語であり、同様の考え方をしてもいいのではないか、そう考えると議会広報紙の読者を増やす、つまりレスポンス率を上げるためには、誰に読んでもらいたいのかという「ターゲットの絞り込み」が必要不可欠であり、何をさておいても、それをまずやらなければ、どんなにレイアウト等のテクニックを学んだとしても、結果として訴求力の弱い、誰にも読んでもらえない、単に「議員自らが、自分たちでつくったんだ」という、自己満足だけが残る変化のないものになってしまうのではないのか。そういった意味で、「ターゲットの絞り込み」の重要性に気づかせて下さった丹波市議会に感謝しています。

所　管

高瀬　洋

１．読者モニターについて

丹波市では平成27年から議会だよりをより良くするため、読者モニターによる「読モ会議」を立ち上げている。しかし初年度は読者モニターを一般公募したが集まらず、議員のつて等により12名のモニターを組織して実施したそうだ。また、平成28年度からは市内の３つの高校にお願いして、読者モニターになってもらい読モ会議を実施している。丹波市には議会だよりの編集を担当する職員がおり、編集などのスキル面でも西脇市とは条件が異なっている。

さて、西脇市も丹波市と同様に読者モニターを募集したとしても、応募はあまりないのではないかと心配する。無理にお願いしたモニターからは、本当に有益な意見等が得られるかという点でも悲観的になってしまう。また、私も２年近く議会だよりの編集を担当してきたが、デザインをもっと工夫した方が良いとか、キャプション等にもっと親しみ易い言葉を選んだ方が良いなと感じている。しかし、これらは頭では分かっていてもそれを実現するスキルが伴っていない。こういったスキルは専門家を雇ったり外注しても構わないから実行するのか、それともあくまで議員の手づくりというスタンスは崩さず、より良いものを作っていこうとするのかは、意見が分かれるところだと思う。私は後者の考えなので、議員のスキルでは対応できないような要望が出てくるかもしれない議会モニター設置には反対で、議員のスキルや時間的な制約を受ける編集期間に応じて最善のものを作っていこうと努力することの方が大切であると思う。

２．たんばりんぐについて

たんばりんぐには３つのポイントがあると説明を受けた。⑴ターゲットは「30代から40代の子育て世代の女性⑵めざすは「５分で読破できる議会だより」⑶常に「読者目線」を忘れずに　を重要な視点にしている。

この３つのポイントを見れば、たんばりんぐが今の体裁になっているのは理解できる。西脇市の議会だよりにも３つのポイントを作るとしたらどうなるのか、それが大切であると思う。

私はじっくり読んでほしいと思うので、あまり文字を減らしすぎるのではなく、記事の中身が大切だと思っているので、５分で読破できる…ということには賛成できない。

また、ターゲットについては、一番人口が多い世代はどうするの？という気持ちも出てきてしまう。この世代が一番読んでくれているとも思うからだ。

所　感

坂部　武美

1　読者モニター会議について

平成27年に市民モニター12名から、丹波市議会だより「たんばりんぐ」について意見を聞き、魅力ある紙面づくりにつなげている。

しかし、当初は公募したが応募がないため、議会だより編集委員が声掛けして集めており、「少なくとも議会だよりの読者となった」「関心を持ってもらう機会となった」と言われるように、意見を紙面づくりに生かすことよりも議会ファンが増えたことの方が大きいといえる。

平成29年からは、市内の３高校、柏原高校、氷上高校、氷上西高校の生徒から意見を聞く「読モ会議」の名称で開催している。

・綴じてないのでバラバラになる→中綴じにした
・読者のページがあれば→裏表紙に市民の声を掲載
・作品募集は→川柳を議員と市民から募集し掲載

など、出された意見からいくつかは取り上げている。

議会だよりについて意見を聞く機会はあってもよいと思うが、疑問点も考えられる。

①　意見を聞き、紙面に反映させるということは、言い換えれば、議会がそのアイデアを持っていない・持っていても実施していないからとも言える。魅力ある紙面づくりをしているのなら、絶えず意見を聞く機会は必要ないだろう。

②　また、意見を聞く方法として、読者モニターのような会議を制度化すべきか疑問である。制度化となれば継続すべきだろうし、毎年、意見を聞く場が必要である。丹波市は制度化していない。高校生から意見を聞く場を持っただけである。３高校との意見交換は一回りしたので、続けて高校生から意見を聞くのかと質問すると、検討しているとの回答であった。引き続き実施しても、前回と同じような意見になるだろうと認識しているような感であった。まずは、議会に興味を持っていただくことが重要と考えているとも答えられた。

③　では、西脇市議会の場合、意見を聞いてどのように反映させるのか。紙面づくりの根本となるレイアウト、デザインが悪いといわれれば、どのように対応するのか。丹波市のように、事務局職員の負担を増やすのか。西脇市議会だよりは議員が作ることになっているので、レイアウト等が良くないのであれば各議員の編集能力を上げるしかない。できない・不得意では済まない。やらねばならない。意見を聞いて反映する＝編集力アップである。デザイン・編集・文章力のスキルアップが先決である。

④　結論として、議会だよりについて意見を聞く場はあってよい。対象は、高校生や大学生などが考えられるが制度化する必要はない。

２　議会だより「たんばりんぐ」について

編集、リード文、みだし、写真の選定、色指定等、主要な部分は事務局職員が担当し、議員は、一般質問、市民参加コーナー、編集後記などを担当している。

要は、事務局が手伝うというより主体となって作っている。

私は「たんばりんぐ」はデザインもレイアウトも悪くない広報紙だと思っており、直す点は少ない。それは、事務局職員の編集、デザイン能力があるからである。

では、西脇市議会だよりはどうか。少しでも紙面をよくするには、読者モニター会議についての③で示したように、議員の編集力アップしかない。編集研修に参加すれば少しはレベルアップする。

ただし、少しでも見やすい・魅力ある議会だよりにしようとする気がないのなら今のままでよい。横書きや縦書きは関係ない。

議会だよりをより多くの人に見ていただくためにコンビニに置いているのは参考になる。市の広報と調整が必要である。

議会だよりモニターをなぜ必要とするのか。意見を聞くことは、魅力ある紙面づくりのための一つの手段である。目指すものは、議会だよりに限って言えば、デザインも良し、文章も良し、写真も良し等、「えー議会だよりや」と言われる紙面づくりであり、そのためにはまずは何をすべきかである。

所　感

岡崎　義樹

今回は、丹波市議会で作成している議会だよりの中の読者モニター会議及び「たんばりんぐ」について、行政視察調査を行いました。

まず、読者モニター会議についてですが、市民モニターとして、編集委員（議員）から各２～３名に依頼したとのことだが、実際に声かけするのは本当に難しいでしょう。それと地域性や年齢構成など、人選をよく考えないといけないかと思います。そうした中で丹波市の議会だよりでは、編集等を良くまとめていると思いました。市民が読みたいと思える議会だよりを目指していることや初の試みとして実施した市民モニター会議など、議員と共に協力して取り組んだことが実を結んでいるなと思いました。編集等に関しても、以前の西脇市議会と同じく、２色刷りで作成しているにも関わらず、イラストなど校正の部分を明るく表現している感じがしました。

次に市民モニターを進化させた「読モ会議」では、地元高校生を対象にした議会モニター会議として取り組んでおり、読んでみたくなる作戦会議として、参加者に議会への関心度アンケート調査を行っていました。その後は、高校生から未来を担う若者を参加させていくなど、大幅に進化させて取り組んでいました。そうしたことから、現在、西脇市議会が行っている高校生版議会報告会で行なってはどうかと考えましたが、現在の所では難しいかもしれません。

続いて「たんばりんぐ」についてですが、親しみやすい紙面づくりとして、目標を「議会だよりを通じて、市議会や市政に関心をもち、参加する市民を増やす」と掲げており、インパンクトがある３つのポイントとして、ターゲットを絞って30代から40代の子育て世代の女性にしたことで若者への関心度が増すと考えてのことだろう。

また、西脇市議会では表紙にページ数を入れていたが、「たんばりんぐ」ではインデックスを加えたり、冊子の配色では２色刷りに関しては、現在変更はしていないが、明るい色合いのイラストで表現していることや文字数を減らすなど、読みやすさを強調しています。今後はそのことも含めて協議してもいいのではないかと考えます。